

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 技能講習等受講支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県立森林文化アカデミー 教務課 電話番号：0575-35-2525(内207)

E-mail : c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,693千円 (前年度予算額： 4,693千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	4,693	0	0	0	0	0	4,693	0
要求額	4,693	0	0	0	0	0	4,693	0
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

現在、林業大学校や林業を学ぶ研修機関が全国で28箇所あり、そのうち20箇所（全体74%）が学生の負担しない公費により林業系の資格を取得しており、少子化が進む中、自己負担で資格取得している当学の学生募集に不利となっている。

林業を学ぶ学生にとっては必要な資格も多く、自己資金で取得している不整地運搬車運転技能講習や玉掛け技能講習等に負担を感じているだけでなく、伐採授業等を受けるために服装等の準備に10万円以上の経済的な負担を強いている。より高度な知識や技術を学ぶ2年生において、技能講習の修了者と未修了者では実習内容に制限が発生し、学生の知識・技術の習熟度に差が生じている。林業を学ぶ学生にとって、自己負担の大きい林業系資格取得を支援し、次世代の林業担い手の確保・育成を図る必要がある。

(2) 事業内容

林業就業を希望している学生に対し、林業に従事するための必要な資格取得に係る経費を支援する。

<林業就業に必要な資格>

- ・不整地運搬車技能講習、車両系建設機械運転技能講習、玉掛け技能講習、
- 小型移動式クレーン運転技能講習、ロープ高所作業特別教育、
- フルハーネス特別教育

(3) 県負担・補助率の考え方

林業を学ぶ学生の知識・技術向上と就職率向上を図る上で、県において全額負担することは妥当。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額(千円)	事業内容の詳細
負担金	4,693	技能講習受講料の支援
合計	4,693	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画において、エンジニア科の県内就職率80%の目標指標を掲げている。

(2) 国・他県の状況

林業に必要な資格取得に研修生が自己負担を要しない他の林業大学校や研修機関が多い。

(3) 後年度の財政負担

継続

(4) 事業主体及びその妥当性

県（森林文化アカデミー）

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

林業に必要な資格取得を支援し、将来の担い手となる林業就業者数の確保を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①エンジニア科 県内就職率			80%	80%	80%	
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（記入用紙面）

(これまでの取組内容と成果)

令 和 4 年 度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令 和 5 年 度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令 和 6 年 度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	林業を学ぶ学生は、学費以外に自己負担の必要な経費が多く、特に林業系資格については種類も多いため、公費支援することは意義がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	学生の林業系資格取得の促進により、知識や技術レベルが統一され、習熟度の高い授業が実施できるため事業効果は高い。また、資格取得を通して、多くの実習により現場技術を習得することができる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	林業就業を希望する学生（エンジニア科林業コース選択者、クリエータ科林業専攻）に限定することで、事業の効率化を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

新規就業者は3年以内に3割が離職するなど、森林整備を担う森林技術者が不足している状況にある。将来の担い手となる林業を学ぶ意欲のある学生の就業支援は不可欠であるが、林業事業者の業務によって必要な資格も変わるため林業事業体が求めるニーズを把握するとともに、自己負担で取得すべき資格との整理が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

他の林業大学校や研修機関、林業事業体とも連携しながら、林業系資格取得の効果的な方法を検討していく。